



東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター  
潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

研究課題(和文): 金石文資料からみた東アジアの墓葬文化—墓誌・買地券を中心に—

研究課題(英文): Funeral Culture on Graves in East Asia by Focusing on Inscriptions

申請者名・所属先: 稲田奈津子 史料編纂所

海外招聘者名: 王海燕(浙江大学歴史学院 教授)

## 1. 研究の目的

東アジアの墓葬遺構から発見される金石文資料には、墓誌や買地券といったものがある。墓誌は死者の履歴や葬儀の様子などを記したもので、買地券は土地神から墓地を買いとる契約書であり、いずれも中国大陸に源を発し、朝鮮半島での変容を経て、日本列島に伝わった墓葬文化といえる。これらの金石文資料は、歴史書などの編纂史料には残りにくい多様な人々—身分・性別・地域など—の実態に迫ることのできる貴重な歴史資料とすることができる。本計画では、中国・韓国・日本における実見調査と分析をもとに、金石文資料から見た新たな東アジア史像を描き出すことを目標とした。

## 2. 研究開始当初の背景

日本と韓国に現存する墓誌・買地券については、(時代の新しいものを除けば)おおよその把握が可能であるのに対し、中国の墓誌・買地券は点数も膨大で、個別事例の詳細な情報を入手するのにも困難が伴う状況にある。そこで関心を共有する王海燕氏を 2020 年 10 月から 1 年間、中国から本学に招聘し、共同での調査・研究を計画した。しかし COVID-19 の影響で来日は延期を重ね、それに伴い研究期間も延長をくりかえすことになった。最終的に来日が実現したのは 2022 年 4 月からの 5 か月弱であり、研究期間は 2023 年 3 月までとなった。

## 3. 研究の方法

当初は王氏の来日を前提にオンライン会議やメールによるうちあわせを続け、オンラインでの国際研究集会報告やオープンセミナーも実施した。しかし来日の見通しが立たないままに 2021 年度後半となり、来日を前提としない研究計画へと見直す必要に迫られた。そこで研究支援の榊佳子氏(史料編纂所・学術専門職員)も交えて検討を重ね、研究対象を買地券に絞り、中国・朝鮮・日本の事例について精細な画像データを収集・分析し、その成果を一書にまとめることにした。日本の事例については 2022 年 5 月・6 月に実物の調査・撮影、および現地踏査を実施した。韓国の事例については 2022 年 11 月に実物調査を実現し、各所蔵機関から精細な画像データも入手することができた。中国の事例については COVID-19 の影響が長く続き困難を極めたが、可能な範囲で画像データ収集と実物調査とを実施した。それらをふまえて分析を進め、稲田・王・榊の 3 名での議論を重ねるとともに、関連する研究会で中間成果を報告して参加者から多くの教示を得た。

## 4. 研究成果

次項に記すように、2 回のオープンセミナーを開催し、課題を共有するとともに研究成果の中間報告をおこなった。最終的な成果として、『黄泉の国との契約書—東アジアの買地券』を出版した。本書では中国 11 件、朝鮮 4 件、日本 2 件の合計 17 件の買地券を中心に、精細な画像とともに釈文・現代語訳・解説を示し、コラムや総論と



あわせて、東アジアの買地券文化を一覧できるものを目指した。銘文だけでなく考古遺物として、その素材や形態も伝わるよう配慮した画像を多く掲載しており、またこうした集成自体が日中韓を見渡しても初めての試みといえる。本書によって今後の研究進展のための土台を築くとともに、前近代東アジアの文化交流を視覚的に実感できる教材としての活用にも期待している。

## 5. 主な発表論文等

〔図書〕

稲田奈津子・王海燕・榊佳子編著『黄泉の国との契約書—東アジアの買地券』（勉誠出版、2023年3月）

〔雑誌論文〕

稲田奈津子「兎山郡買地券の「発見」—新出資料調査記—」

（『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』100号、2023年4月）

〔学会発表〕

王海燕「浙江省の買地券—後漢～五代を中心に—」

（国際研究会「中国・韓国における古代金石文研究の最前線」2021年3月18日 オンライン）

稲田奈津子「新出高麗買地券の紹介と釈読」

（金石文科研2022年度第1回研究会 2022年5月24日 オンライン）

王海燕「浙江・江蘇両省の買地券事例の紹介と釈読」

（金石文科研2022年度第2回研究会 2022年8月2日 オンライン）

〔その他〕

東京大学ヒューマニティーズセンター第41回オープンセミナー「東アジアのなかの墓誌」

（2021年9月3日 オンライン 参加者190名）

〔報告1〕稲田奈津子「日本古代の墓誌と東アジア」

〔報告2〕田衛衛（首都師範大学歴史学院・東京大学史料編纂所外国人研究員）

「吉備真備書〈李訓墓誌〉の発見とその意義」

〔報告3〕植田喜兵成智（学習院大学東洋文化研究所）「古代朝鮮関連の唐代墓誌とその研究動向」

〔コメント〕王海燕

東京大学ヒューマニティーズセンター第69回オープンセミナー「黄泉の国との契約書—東アジアの買地券—」

（2022年6月3日 オンライン 参加者118名）

〔報告1〕王海燕「中国の買地券—吳越地域の事例を中心に—」

〔報告2〕稲田奈津子「朝鮮と日本の買地券」

## 6. 招聘フェロー（海外招聘者）からのコメント

招聘フェローとして、今回の共同研究では中国とくに江南沿海部における買地券の事例の実物調査や画像データ収集を担当した。2022年4月28日～2022年9月15日の間、外国人研究員として史料編纂所に滞在し、共同研究者である稲田奈津子氏・榊佳子氏とともに日本の買地券の実物調査し、買地券の出土地も見学した。

また稲田・榊両氏とともに『黄泉の国との契約書—東アジアの買地券』をまとめるに際して、古代中国における買地券の発展・変化を整理したうえで、研究会などでの口頭発表や、日本の研究者との議論を通



して、日中韓三国の買地券についての知見を広め、その関連性や多様性をより一層捉えることが出来るようになった。また買地券の釈文や解説などの内容は言葉遣いまでもすべて共同研究者 3 人で何回も討論して、多くの学術的な刺激を受けた。それだけでなく、中国と韓国の研究者からの寄稿によって、買地券に関する最新の情報などを知り、大変勉強になった。

今回の共同研究はまさに正真正銘の共同研究といえ、今後の研究活動にも資するものと考えている。